

平成26年7月31日

於 全員協議会室

平成26年7月

大和市教育委員会定例会

大和市教育委員会

平成26年7月大和市教育委員会定例会

○平成26年7月31日（木曜日）

○出席委員（5名）

1番	委員長職務代理者	鈴木勝雄
2番	委員	石川創一
3番	教育長	滝澤正
4番	委員	篠田優里
5番	委員	青蔭文雄

○事務局出席者

教育部長	朽名勇	こども部長	小山郁夫
文化スポーツ部長	金子正美	教育総務課長	齋藤園子
学校教育課長	犬塚克徳	保健給食課長	齋藤喜久夫
指導室長	久津間仁	教育研究所長	深谷美紀
青少年相談室長	沼尻港	こども・青少年課長	村澤正弘
文化振興課長	秋山伸一	生涯学習センター館長	山崎浩
図書館長	桜井真澄		

○書記

教育総務課 政策調整 担当係長	飛田幸人	教育総務課 政策調整 担当主査	瀬古直之
-----------------------	------	-----------------------	------

○日程

1	開会	
2	会議時間の決定	
3	前会会議録の承認	
4	会議録署名委員の決定	
5	教育長の報告	
6	議事	
	日程第1（議案第32号）	大和市立学校通学区域規則の一部を改正する規則について
	日程第2（議案第33号）	平成26年度大和市奨学生の決定について
	日程第3（議案第34号）	平成27年度使用小学校教科書用図書採択について
7	その他	
8	閉会	

開会 午前9時00分

- 青 蔭
委員長 ただいまから、教育委員会7月定例会を開会いたします。
会議時間は正午までといたします。
前会の会議録は署名委員の署名をもって承認されました。
今会の署名委員は、1番鈴木委員、4番石川委員、それぞれよろしく
お願いします。
続きまして、教育長の報告求めます。
- 滝 澤
教育長 前月定例会以降の動きということで、1番から15番までございま
す。
5番、校長会役員との協議を7月4日金曜日の9時から教育委員会室
で行いました。平成27年度の教育予算の要望、3学期制実施に伴う学
校の教育環境の整備、全国学力・学習状況調査の公開等について要望等
をお聞きしました。
9番、市町村教育長連合会の幹事会が7月9日水曜日の14時から座
間市役所で行いました。校長会等、関係団体の補助金等の審査と神奈
川県教育委員会の平成27年度事業計画に対しての予算要望について審
議しました。大和市に関わっては、毎年要望を行っておりますが、一人
一人の教育ニーズに対応するための教育を展開するため、大和市内に県
立特別支援学校を設置するよう要望いたしました。
次回定例会までの予定として、やまとおもしろ科学館がござい
ます。8月2日土曜日の10時から生涯学習センターで行われますので、多く
の子供たちや市民の方々の参加をお願いしたいと思っております。
- 青 蔭
委員長 ただいま教育長の報告が終わりました。質疑等がございましたら、よ
ろしくお願いします。
- 鈴 木
委 員 学校訪問がございましたが、私は、学校訪問に行く前に、ホームペー
ジを見てその学校の概要を把握しております。更新がままならない学校
もあるようですが、今後はぜひ更新をお願いしたいと思います。
また、大和市のホームページについても、教育委員会のホームページ
に入るのがなかなか難しいので、できればトップページに教育委員会の

バナーをつけてほしいと思います。

もう一点は、次回の定例会までの予定ですが、教育長がおっしゃいましたとおり、やまとおもしろ科学館を毎年楽しみにしております。昨年も10時からの開始でしたが、長蛇の列でした。いろいろな実験などが見学できて、親子で楽しむことができますので、ぜひ皆さんにも参加してほしいと思います。

○青 蔭 委員長 ありがとうございます。ぜひ、ご参加していただきたいと思います。

○石 川 委員 学校訪問にかかわって、中学校では不登校の生徒が非常に多いという現状があります。教育委員会としては、不登校問題に力を入れてきましたが、なかなかうまく進んでいないのが現状だろうと思います。いろいろな理由はあろうかと思いますが、今後、対応を考えていかなければいけないと思いました。

○篠 田 委員 学校訪問について、今回、小学校と中学校を訪問した中で感じたことがございます。小学校では2から3クラスの小規模校で、アットホームな体制で子供たちも伸び伸びとしていたところが、大規模な中学校に進学すると、幾つかの小学校が集まって子どもの人数が大きく増えます。その中で、いろいろなギャップから問題が増えてくるのではないかとの印象を持ちました。やはり、常々言っておりますが小中連携の大切さを、強く感じました。

○青 蔭 委員長 いろいろ課題がありますが、前向きに、なおかつ慎重に、検討していきたいと思います。

他にいかがでしょうか。ご意見等ございますか。

他にないようですので、教育長の報告に対する質疑を終了します。

◎議 事

○青 蔭 委員長 それでは、議事に入ります。

日程第1（議案第32号）「大和市立学校通学区域規則の一部を改正する規則について」を議題といたします。

細部説明を求めます。犬塚学校教育課長。

○犬塚 今回の規則の一部改正は、現在の北大和小学区、大和小学区、大和中学区について、見直しをするために行うものです。

課長 初めに、北大和小学区についてです。現在、旧国道16号線の東側が北大和小学区、西側が中央林間小学区となっていますが、北大和小学区のホテルの跡地に建設中の2棟のマンションについて、北大和小学区から中央林間小学区に改めるものです。北大和小学校の過大規模校化が進んでおり、児童数を抑制するために行うものですが、実際に北大和小学校よりも中央林間小学校の方が近く、目の前に歩道橋があり、子供たちの安全も確保されていることから、通学区域を改正するものです。

次に大和小学区です。深見西2丁目に建設中の大型マンションを大和東小学区に改めます。このマンションは、株式会社稲葉製作所の旧神奈川営業所及び大和配送センターの跡地に建設予定であり、学区としては、この事業所の南側の道路を境に北側が大和小学区、南側が大和東小学区となっております。このマンションが建設される区域は、既に弾力的運用で、大和東小に通っている子どもたちが多く住んでいる地域です。大和小学校でも過大規模校化が進んでいることと、通学距離も短くなることから、大和東小学区に変更するものです。

続いて大和中学です。今ご説明した深見西2丁目のマンションを、大和東小学区に改めることと併せて、光丘中学校区に変更するものです。交友関係などを考慮して、大和小であれば大和中に進学し、大和東小であれば光丘中に進学することとしておりますので、小学校区の変更に伴い、中学校区も改正するものです。

規則の改正点ですが、第2条において、別表という表記を別図と改めます。また、改正後の別図ですが、公所のホテルの跡地と、深見西2丁目のマンションのところで学区の境界線を変更してあります。

附則で施行期日と経過措置を定めております。この一部改正規則の施行期日は公布の日からとします。また、経過措置については、現在、北大和小学校、大和小学校、大和中学校に通っている子どもたちが、学区変更になるマンションに入居した場合は、引き続き学校を変えないでそ

のまま通学できることとしたものです。

- 青 蔭 委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、お願いします。
- 鈴 木 委 員 大和東小学校区、光丘中学校区に変更する深見西2丁目のマンションについては、どこの自治会に属しているのでしょうか。
- 犬 塚 学校教育 自治会は深見中原自治会となります。既にご説明に伺っておりますが、もともと大和東小に弾力的運用で通っている子供たちが多く、自治会内では既に大和小と大和東小の両方に通っている状態がございますので、自治会長は快く引き受けてくださいました。
- 鈴 木 委 員 マンションが深見中原自治会から独立することはないのですか。
- 犬 塚 学校教育 独立するかどうかは承知しておりません。深見中原自治会の会長は、そのまま同自治会になると捉えていると感じております。実際にどのようになるかは、判断いたしかねます。
- 石 川 委 員 新たなマンション建設の影響で、大和小学校と北大和小学校の児童数が膨れ上がってしまう中での措置と考えますが、このような形で、マンションが建ったら、とりあえずどこかの学区に入れようということに対応した場合に、将来的には、このマンションから子供たちがいなくなってしまうことも想定されます。いわゆる場当たりの対応ではなく、もう少し抜本的に、学区編成を考えていく必要があるのではないかと思いますがいかがでしょうか。
- 犬 塚 学校教育 大和市全体で考えますと、子供たちが増えている地域と減っている地域があります。そのような地域差がございますので、将来的には、統廃合を含め、学区を見直すことが必要になってくると思います。そのために、大和市として学区を見直す、または学校を作るといったことを判断するための基本的な方針を、今後策定していきたいと考えております。
- 石 川 委 員 現状では、このような方法がベターだとは思いますが、やはり、もう少し先を見通した中で、大和市全体の学区並びに学校そのものについて考えていく必要があるのではないかと思います。
- 青 蔭 他にいかがでしょうか。

- 委員長 篠田委員、ございますか。
- 篠田委員 ありません。結構です。
- 青蔭委員長 教育長、何かございますか。
- 滝澤教育長 結構です。
- 青蔭委員長 他にないようですので、質疑を終結いたします。
これより、議案第32号について採決いたします。
本件の原案について、ご異議ございませんでしょうか。
- （「異議なし」の声）
- 青蔭委員長 異議なしということでございますので、議案第32号は可決いたしました。
- 続きまして、日程第2（議案第33号）「平成26年度大和市奨学生の決定について」を議題といたします。
- 細部説明を求めます。犬塚学校教育課長。
- 犬塚学校教育課長 先月の定例会では諮問について決定いただき、ありがとうございました。平成26年度大和市奨学生選考審査会が7月10日木曜日に行われ、3名の委員全員に出席していただき、審査会より、家庭の経済状況、学業成績、納税状況などを総合的に判断して、28名の新たな奨学生の答申を得ております。
- また、平成25年度の受給者及び平成24年度からの受給者についても、答申が得られました。
- なお、先月の定例会において、諮問いただいた名簿の中で、進学先が間違っていた生徒がいます。平成26年度の奨学生名簿の6番と26番の生徒になります。今回の名簿は正しく修正してあります。大変申しわけありませんでした。
- 青蔭委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしくお願いいたします。
- 鈴木 人数の上限は何人になっているか、教えてください。

委員

○犬塚 奨学生は各年度で50人までです。今回、28名ということで、定員
学校教育 課長 は満たしておりませんが、もともと申請者数が41名という状況でござ
いました。

○篠田 平成25年度からの受給者及び平成24年度からの受給者が、それぞ
委員 れ23名、28名との決定ですが、前年度との人数の比較を教えてください。

○犬塚 平成25年度からの受給者は、所得要件で3名外れました。また、平
学校教育 課長 成24年度からの受給者からは、市税の滞納により1名外れました。

○石川 要件として、市税の滞納者は除外するということですが、市税を滞納
委員 しなければならないような経済的に厳しいご家庭に対しては、むしろ受
給するという考え方もあるのではないかと思います。いかがでしょうか。

○犬塚 奨学金給付規則の第2条で、申請日現在で保護者に市税等の滞納がな
学校教育 課長 いことと規定されております。市税をしっかりと収めている人に対し
て、奨学金という子供たちの進学に際して使えるお金を給付するという
考え方で、規則を制定しております。

○石川 説明は分かるのですが、そういう生徒には、別な手立てがあるのでは
委員 しょうか。

○犬塚 神奈川県でも奨学金の制度がありますし、高等学校でそれぞれ奨学金
学校教育 課長 がございます。その中には、返済をするものと返済しないものがございます。大和市の場合は返済する必要のない奨学金になります。そのような様々な手立ての中で、大和市としては、このような考え方で奨学金を給付しているということです。

○石川 市税を納めない理由がいろいろとあると思いますが、基本的には経済
委員 的な状態があまりよくないと考えざるを得ないとすれば、何らかの形で
の対応が必要なのではないのでしょうか。そういう方たちは大和では給付
しないけれども、他で給付してくれると言ってしまっているのかどうか
疑問があります。

○青 蔭 事務局としては規則の規定に則って対応しているということでござい
委員長 ます。

○犬 塚 石川委員のおっしゃることもよく分りますが、更新するためには、毎
学校教育 年この審査を経ることになりますし、審査会としては規則に則って奨学
課 長 生を決定したということです。今回外れた方については、前年度は給付
されているということです。平成26年度からの受給者についても、来年度絶対受給できるとは限らないということになります。

○石 川 答申を受けた方々を認めないといということではありません。根本的
委 員 なところで疑問があります。

○滝 澤 ただ今ご意見をいただいたことについては承知いたしました。
教育長

○青 蔭 分かりました。今後の課題といたします。
委員長 他によろしいでしょうか。

○青 蔭 他にないようですので、質疑を終結いたします。
委員長 これより、議案第33号について採決いたします。
本件の原案について、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声)

○青 蔭 異議なしということですので、議案第33号は可決いたしました。
委員長 次の日程第3(議案第34号)ですが、議事運営上、日程を変更し、
その他の後に審議といたします。

◎その他

○青 蔭 それでは、その他に入ります。
委員長 各課で報告事項がございましたら、順次、報告をしてください。
ないですか。
委員の方々、他にございますか。

(「はい」の声)

○青 蔭 特にないようですので、8月定例会日程をお知らせ申し上げます。
委員長 8月定例会は、8月20日の午前10時を予定しております。よろし

くお願いします。

ここで、関係職員以外の退室をお願いします。関係職員として、教育部職員を指定します。

それでは、暫時休憩とします。

(休憩)

○青 蔭 再開いたします。

委員長 日程第3（議案第34号）「平成27年度使用小学校教科書用図書の採択について」を議題といたします。

まずは、大和市教育教科用図書採択検討委員会からの報告を求めます。久津間指導室長。

○久津間 大和市教科用図書採択検討委員会は、大和市教科用図書採択方針に基づき、平成27年度使用小学校教科用図書について、文部科学省の「教科書編集趣意書」、県教育委員会の「調査研究の結果」、調査研究員による「調査研究報告書」、各小学校からの「学校アンケートの結果」、教科書展示会における感想などを参考資料として検討してまいりました。

採択検討委員会は、5月26日、7月7日、同17日に開催し、7月7日、17日につきましては、調査研究員より調査結果についての説明を受けた上で、慎重かつ公正に検討を行いました。

採択検討委員会の検討結果につきましては、大和市教科用図書採択検討委員会報告書にまとめてございます。

なお、報告書には、全発行者についての調査研究報告の概要及び採択検討委員会における主な意見・協議内容などを記載しております。

○青 蔭 ただいま大和市教科用図書採択検討委員会からの報告をいただきました。

委員長

質疑等ございますか。

(「なし」の声)

○青 蔭 ないようですので、質疑を終結し、審議に入りたいと思います。

委員長 審議に当たり、採決方法についてお諮りします。

教科書採択については、市民の皆様方の関心も特に高く、より透明性

の高い採択とするため、採決方法は、委員の挙手により採決することにしていただきますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声)

○青 蔭 委員長 異議なしということでございますので、挙手により過半数を超えた場合、教科用図書を採択することにいたします。

それでは、改めて審議に入ります。

審議は1種目ごとに行います。国語科国語から審議をいたします。

細部説明を求めます。久津間指導室長。

○久津間 指導室長 採択検討委員会では、報告書の中央に記載のある調査研究員の報告概要等を受け、各種目の教科書の検討に当たりました。

国語については、第1順位、光村図書、第2順位、東京書籍、第3順位、学校図書、第4順位、三省堂、教育出版という推薦をいただきました。

光村図書につきましては、題材に力のある教材がある。新しい題材も工夫されていて魅力がある。読む、書くことの構成が関連づけられてよい。どんなところに気をつけて学習するか、学習の流れが明らかになっている。読みやすく、読書指導も力を入れていて、図書館活用を推進する大和市にはよい。などの意見が報告されています。

東京書籍につきましては、国語のノート作り、ノート指導に役立つ例があり、自主的な取り組みができるのがよい。どの学年も最初に1年間の見通しが見開きで確認ができ、見通しを持って取り組める。情報リテラシーの取り上げ方がよい。幼、保、小連携に配慮している。

学校図書につきましては、幼、保、小連携に配慮している。1年生の最初にインデックスの工夫があってよいが、折り曲がりそう。スカイツリーのことなど、新しいジャンルが入っている。

三省堂については、分冊の工夫が特徴的だが、年間を通して振り返って活用するなら、合冊の方がよいと考える。

教育出版については、単位の使い方がよい。自主的に学ぶという点での出典はよい。

という報告がありました。

以上が国語科について、採択検討委員会からいただいている報告内容となっております。

○青 蔭 委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしく申し上げます。

○鈴木 委員 全体を通じまして、今回の採択に当たり、私のスタンスを申し上げます。

私は、4年前の前回採択した教科書との継続性を重視したいと思えます。それが1点です。また、大和市の教科用図書採択検討委員会、学校アンケート、教科書展示会の感想等を加味して判断しました。また、特に小学校1年生では初めての教科書ということで、新入生にとってインパクトがある、写真やイラストも加味して考えました。

国語ですが、前回も光村図書であり、今回も検討委員会では光村図書が第一順位ですので、それを推したいと思えます。基礎・基本となる知識、技能を、スパイラル的に積み重ねていくというところが最も良かったのではないかと考えています。

○石 川 委員 基本的なスタンスは、私も鈴木委員と似ていますが、基本的な観点としては、やはり子供の使いやすさ、それから教師が指導する場合の指導のしやすさというところで判断いたしました。

国語については、採択検討委員会の報告書にもありますように、光村図書を推薦したいと考えています。

多くの会社が、今回から、高学年は年間を通した合冊という形になっています。合冊は、年間を通した見通しができること、また各学校で教育課程の工夫がしやすい利点があります。以前は下の教科書が来ないと、下のものを先にできないということがありましたので、多少、教材を入れかえるなど、学校で見通しを立てて教育課程を組むことができると思いました。これは、光村図書だけではなく幾つかの教科書がそうなっていました。

光村図書で特にいいと思ったのは、各単元の目標が具体的な言葉で表されていることです。「何々をしてみよう」というのは、他社でもありますが、光村図書の場合にはもっと具体的に、子どもたちに対して、こ

のようにしたいという形で、具体的な言葉で表されていて、目標を立てやすいのではないかと思います。それから、読み物教材等では、かなりいろいろな本を紹介していますので、大和市の読書活動においても発展的な学習が期待できるのではないかと思います。

また、巻末についている補充学習・発展学習の教材が、手立てがはっきりしていて使いやすいと思いました。

○篠田 委員 私も、基本的なスタンスとしては、それぞれの調査研究の結果、そして採択検討委員会の結果、また学校アンケートや市民のアンケートなどの情報も得まして、その上で実際に教科書を拝見して判断いたしました。

大和市では長い間、光村図書を使用していて、今回も教員の大半がこちらを勧めております。感じたことは、光村図書の教科書が子どもの興味を引くような題材を多く取り上げていて、全体としても内容的にバランスがとれているということです。特に2年生の教科書では、漢字を習い始め、覚える量も増えていく中で、漢字の書き順がその単元のページの端に示されており、この点は非常に工夫を感じました。巻末の新出漢字のページをめくらなくても、その場で書き順を確認できることは、自然に書き順を意識するくせがつけられると思います。低学年だからこそ大事な工夫だと思いました。

全学年を通して、「いつも気をつけよう」のところで、大切な事項が繰り返し確認できることは、基礎の定着につながると思ひまして、光村図書を勧めたいと思います。

○滝澤 教育長 私の基本的なスタンスですが、調査研究員の報告は教員が調査をして検討委員会に資料として提示したもので、各教科の専門性の高い教員が調査研究をしておりますので、この報告を考慮していきたいと考えています。さらに、採択検討委員会の答申を加えて判断していきたいと思っております。

国語科については、光村図書、東京書籍、学校図書の順で推薦されています。東京書籍の魅力的なところは、ノート指導に役立つ例が丁寧に書いてあることです。今の子供たちは、書くことが苦手です。これは国

語科に限らず、全ての教科にかかわってくる問題です。そこに光を当てて編集されていることが魅力だと思いました。

学校図書は、やはり幼稚園、保育園と小学校の連携に配慮した編集方針が随所に見られました。これも魅力だと思っております。

光村図書については、まず小学校1年生の導入の部分、「さあ はじめよう」という単元を見ますと、「なんて いおうかな」から始まり、「どんな おはなしかな」へと続きます。これは市内の小学校で多く行われている読み聞かせへの動機づけになると思います。

それから、「せんせいに あわせて いって みましょう」では、鉛筆の持ち方とか、それから椅子に座って書く姿勢とか、こういうことをきめ細かく提示しています。国語科と初めて出会う子供たちに、この教科を学ぶ姿勢を懇切丁寧に示しており、初めて教科書を手にする6歳の子供に対して、国語科への誘いが適切になされていると思います。これが、光村図書をお勧めしたい理由です。

それから光村図書を推薦したい理由のもう一つは、読むことの領域の中で、各学年に本や読書生活について考える「本は友達」という単元があることです。石川委員からもご意見がありましたが、読み物教材と読書活動がしっかりと結びつくように丁寧に書かれております。これは他社でも書かれておりますが、本市では読書活動の充実を重点施策に掲げておりますので、読み物教材の単元が終わったら、同じ作者や、類するテーマの本を発展的に読むことができるように案内が書かれています。教科書を使って勉強した子供たちを、さらに読書として発展させていく際に、有効に活用できるのではないかと感じます。

それぞれ教科書に特性がありますが、本市の子どもたちが国語科の授業をしていくときにベターな教科書としては、私も光村図書を推薦したいと思います。

○青 蔭 ここで、暫時休憩をいたします。

 委員長 傍聴者の入室を許可いたします。

 (休 憩)

○青 蔭 それでは、再開いたします。

委員長 他に委員の方々、質疑、ご意見等ございますか。
他にないようですので、質疑を終結いたします。
それでは、国語科国語について採決いたします。
本件について、発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

東京書籍、ゼロ。学校図書、ゼロ。三省堂、ゼロ。教育出版、ゼロ。
光村図書、4名。

光村図書が全員賛成でございますので、国語科国語の教科用図書につきましては光村図書に決しました。

続きまして、国語科書写について審議いたします。

細部説明を求めます。久津間指導室長。

○久津間 採択検討委員会では、第1順位、光村図書、第2順位、日本文教、第3順位、東京書籍、第4順位、学校図書、三省堂、教育出版という推薦をいただきました。

光村図書につきましては、国語との関連もあり、硬筆と毛筆との関連がよい。筆遣いはシンプルで情報が凝縮されており、週1時間の授業ではよい。素早く書きとめるなど、新しい内容がある。毛筆を日常に生かす視点があり、見通しを持って取り組めるのがよい。

日本文教については、筆遣い、筆の動きを伝えるのに見やすく分かりやすい。穂先を意識させるような言葉が入っている。細かい技術的なことがしっかり出ている。指導する立場から丁寧に書かれている。実物の写真で筆遣いを示しているのがよい。

東京書籍については、筆遣いについてワイドに扱い、筆の置き方、おろし方など丁寧に書かれている。道具にも興味を持てるようなアプローチがある。うまくいかないときのインデックスがよい。

学校図書については、穂先の動きなど、丁寧に説明しているが、少々小さいと感じた。片づけにピンを使っているのはいかがか。

三省堂については、キャラクターを用いて、穂先の動きを説明している。腕全体の動きが分かる写真を使っている。

教育出版については、裏表紙に鉛筆や筆の持ち方があり、繰り返し見

られるようになっている。

という報告がありました。

以上が、国語科書写についていただいている報告内容となっております。

○青 蔭 委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしく願いいたします。

○石 川 委 員 光村図書を推薦したいと思います。私も個人的に習字をしておりますが、他の方に教えるときに、筆遣いというのが基本的なところで大事になってきます。そこで、毛筆書写の部分で各社の筆遣い部分を見たときに、光村図書の場合には実物大で筆遣いが出ています。筆の先はどこを通るかなどが、実物大で大きく示されていることが、分かりやすいと思いました。

また、毛筆などの習得した技能をどのように生活に役立てるかという点でも応用しやすい構成になっていると思いました。

○篠 田 委 員 国語の教材と関連した内容があることから、私も光村図書がよいと考えました。特に、分かりやすさという点で、今、石川委員もおっしゃっていましたが、写真がとてもシンプルなのにあわせて、印刷のカラーもシンプルなので、全体的にカラフルになり過ぎず、見やすい教科書になっていると思います。同時に、筆遣いに関しては、朱墨と薄墨を使って書かれており、注意する箇所が分かりやすくなっていると思いました。

○鈴 木 委 員 私も光村図書がよろしいと思います。イラスト等が適切に配置されていること、調査研究報告書や学校アンケート、展示会の感想等を見ましても、光村図書がいいと考えます。

○滝 澤 教育長 書写は、毛筆が硬筆にどう生きるかということが基本ですから、光村図書は、そのつながりが適切に対応できていると感じています。

それから、先ほど石川委員がおっしゃったように、毛筆の穂先が実物大で明確に書かれています。これまでは、補助資料的な教材を学校で買い求めて子どもに与えるということもございましたので、教科書の中に部分的であっても入っているということが魅力だと思います。このよう

な点から、光村図書がいいと思っております。

○青 蔭
委員長

他にご意見等ございますか。

他にないようですので、質疑を終結いたします。

それでは、国語科書写について採決いたします。

本件について、発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

東京書籍、ゼロ。学校図書、ゼロ。三省堂、ゼロ。教育出版、ゼロ。
光村図書、4名。

光村図書が全員ですので、国語科書写の教科用図書については、光村
図書に決しました。

続いて、社会科社会について審議いたします。

細部説明を求めます。久津間指導室長。

○久津間
指導室長

採択検討委員会では、第1順位、教育出版、第2順位、光村図書、第
3順位、東京書籍、日本文教という推薦をいただきました。

教育出版については、学習の説明があり、課題がしっかりと提示さ
れ、見通しを持てるのがよい。学習の流れが子どもたちに分かりやすい
構成である。領土について多く示されている。自然災害についてしっか
り取り上げている。神奈川県例示が多い。防災に関する扱いが丁寧で
ある。

光村図書については、神奈川県例示が多い。国際の内容が多く、よ
その国との関係が丁寧。5、6年が合冊でよい。近代史を多く取り上げ
ている。読みやすさがある。

東京書籍については、キャラクターで興味を持たせている。学習の習
得、中学校との連続を意識している。

日本文教については、どちらかという、西の地方を中心に内容が書
かれている。

という報告がありました。

○青 蔭
委員長

ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございました
ら、よろしくお願いいたします。

○石 川

社会科は非常に判断が難しかったというのが実感です。どれにしよう

委員 か、かなり考えましたが、最終的には教育出版がいいと思いました。教育出版の場合は、最初に課題がはっきり示されて、学習の手立て、活動の手立てが順序よくできています。したがって、どういう勉強をするのか、子供たちにとって分かりやすい教科書作りがされていると思いました。

それから、特に社会科の教科書ですから、身近な問題が多く示されると学習がしやすいということがございますが、教育出版の場合には県内の横浜市のことが出ていて、そういう意味ではよいと思いました。

他には、東日本大震災等々をしっかりと取り上げており、防災についてしっかりとした意思が見えるということで、教育出版にいたしました。

○鈴木委員 私も、教育出版がよろしいと思います。一番の理由は、写真が多用されているということです。また、写真が大きく、イラストや地図などの組み合わせが適切であるということから、教育出版がよろしいかと思いました。

○篠田委員 私も同じく、採択検討委員会の結果のとおり教育出版がよいと思います。その理由ですが、学習の振り返りの点で非常に工夫されていると感じております。「まとめる」という部分では、キーワードを使って書き込み式になっているところが、ポイントをつかみやすいと思いました。また、索引を見ると、人物名にマークがついていたり、キーワードが太字であらわされたりしている点が丁寧で、振り返りのときにも役立つであろうと思いました。

○滝澤教育長 社会科の教科書は、相当な情報量がございます。子どもたちが歴史や、社会的な知識を幅広く学ぶためには、学び方が大事になると思います。先ほど石川委員もおっしゃっていましたが、問題解決的な学習に必要なスキルが、教科書の編成に生かされていることが望ましいと思います。そういう視点で考えますと、教育出版の教科書は、各学年の初めの単元で、問題解決的な学び方を提示している。つまり、学習問題を作り、学習の見通しを立てようということが示されています。また、他社の教科書も同様の編集方式もありますが、大事な言葉がキーワードとし

て表現されているということでも、私としては教育出版を推したいと思っております。

さらに、教科書は資料やグラフ、写真などの分量が適切でなければいけません。多過ぎても少な過ぎてもいけないし、古くてもいけません。そういった意味で、教育出版の教科書は適量だろうと思っております。

○青 蔭
委員長 他にご意見等ございますか。

○滝 澤
教育長 補足ですが、どの教科書も6年生で領土問題について扱っていますが、教育出版の教科書は、色分けをするなど分かりやすくする工夫がありました。子供たちが見たとき、こういう問題があることが目につきやすいという印象を持ちました。

○青 蔭
委員長 他の委員、よろしいでしょうか。
他にないようでございますので、質疑を終結いたします。

それでは、社会科社会について採決いたします。

本件について、発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

東京書籍、ゼロ。教育出版、4名。光村図書、ゼロ。日本文教、ゼロ。

教育出版が全員でございますので、社会科社会についての教科用図書については、教育出版に決しました。

続いて、社会科地図について審議いたします。

細部説明を求めます。久津間指導室長。

○久津間
指導室長 採択検討委員会では、第1順位、東京書籍、第2順位、帝国書院という推薦をいただきました。

東京書籍については、大判で見やすく百科事典的で、ビジュアル的にも優れている。子供たちに分かりやすいという点で縮尺を定規で示しているのはよい。日本固有の領土もしっかりと記述がある。巻末の表記も、カラーで比較しやすい。歴史で習う場所なども示され、他とも関連づけて扱える。南半球を上にした地図もあり、視点を変えるという点でよい。家に持って帰ってみたいと思わせる。

帝国書院については、資料やデータの数が多く豊富である。表紙の素材は耐久性が高いと思われる。地図としての縮尺のあらわし方は一般的なもので表記されている。

という報告をいただきました。

○青 蔭 委員長 　　ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしくお願いします。

○鈴 木 委 員 　　前は帝国書籍を採択したと聞いておりますが、今回、採択検討委員会では東京書籍を推薦するということでした。随分見比べてみましたが、私自身が学んだのもおそらく帝国書籍だと思いますので、見なれた点が多々あって随分悩みましたが、結果としては、東京書籍にしたいと思います。その理由は、大きさがA4版であるということと、ビジュアル的に適材適所に写真・イラスト等があること、これを家に持ち帰って皆で見たいと思えることです。

○篠 田 委 員 　　私もワイドで大判になっていて、全てにおいて見やすいというところで、東京書籍がいいと思いました。各資料については、両社とても工夫されていましたが、文字サイズなどの工夫等を考えまして、頭に入りやすいという点から、東京書籍がいいと思いました。

最後の索引にあるマイ・インデックスという欄は、授業だけではなく、多くの機会に子どもたちが利用する工夫になると思いました。

○石 川 委 員 　　私も、東京書籍を推薦します。見たときに明らかに大きく、子供たちが見やすく、わくわくすると、そういう気持ちがありました。それからもう一つは、地図を見る場合、その場所がどのページにあるか、索引を利用することになりますが、索引を比較してみると、明らかに東京書籍の方が充実しています。子供たちが必要な情報を速く得やすいという点で、子供たちが地図を利用しやすいのではないかと思います。

○滝 澤 教育長 　　私もほとんど同じ意見です。まず、大判で見やすいということと、ビジュアル化しているものが適切であるということです。また、地図帳は何回も開いたり閉じたりしますので、その装丁もしっかりしていることが大事だろうと思います。それから子供の目から見て見やすいという観点で、やはり東京書籍だと思います。

それから先ほども触れましたが、6年生の社会科では領土問題を扱いますが、地図の中でも示されているという点も魅力だと感じました。

それから、日本から世界を見るということも大事ですが、違った視点から日本を見るということを地図上で体験をすることも有意義だと思います。南半球を上にした地図があるという報告がありましたが、いろいろな角度から日本を見ることが、柔軟な思考の一助になると思っております。したがって、東京書籍を勧めたいと思います。

○青 蔭 他のご意見等はございますか。よろしいでしょうか。

委員長 他にないようでございますので、質疑を終結いたします。

それでは、社会科地図について採決いたします。

本件について、発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

東京書籍、4名。

東京書籍が全員でございますので、社会科地理についての教科用図書については、東京書籍に決しました。

続きまして、算数科算数について審議を行います。

細部説明を求めます。久津間指導室長。

○久津間 採択検討委員会からは、第1順位、東京書籍、第2順位、教育出版、
指導室長 第3順位、大日本図書、学校図書、啓林館、日本文教という推薦をいただきました。

東京書籍については、単元の前に既習事項の確認ができる。算数の目標に見通しを持ち、筋道を立てて考える能力や、表現する能力や表現する能力を養える。学び合いの視点がある構成がよい。生活に則した課題の提示が見られる。

教育出版につきましては、算数を学ぶよさが示されている。学習の手引きが各学年にある。自然災害などの題材がある。まとめとして4コマ漫画を取り入れて、子どもには馴染みやすいと思われる。

大日本図書については、円を36分割で考える独自性がある。書き込みのスペースがある。1年生が合冊で厚い。

啓林館については、単位のあらわし方が正確である。

日本文教については、大判である。中学とのつながりについて触れている。少しレベルが高い。掛け算が2の段から始まる。

という報告がありました。

○青 蔭 委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしくお願ひします。

○鈴 木 委 員 私は東京書籍を推したいと思います。その理由ですが、特に1年生では、初めての教科書ということで、上下2冊に分かれていて、練習問題などの量が確保できているということと、6年生の教科書では、中学生では新たな教科になることから、小学校から中学校への橋渡しの項目があるということが、よろしいかと思っております。

○篠 田 委 員 私も東京書籍を推したいと思ひました。

新しい単元に入る前に、以前の関連する学習内容を確認する工夫があることは、つまずきをなくすため、また、家庭学習で使うのにもよいだろうと思ひました。「算数実習コーナー」など演習問題が多いのも、家庭で取り組みやすいと思ひました。

この新しい単元に入る前の振り返り、確認する工夫というのは、他社でも見られましたが、その他のいろいろなところで比較しましても、先ほど鈴木委員もおっしゃったように、1年生で上下2冊に分かれているということで、丁寧に学習に入れる工夫がされています。反面、高学年になったときには「おもしろ問題にチャレンジ!」や「算数卒業旅行」と、中学体験問題集のような、レベルの高い問題もあり、幅広い児童に対応できる内容となっていると思ひました。

○滝 澤 教育長 算数は、高学年に行くに従って、得意不得意がはっきり出てきます。算数に対して苦手意識を持っていたり、得意であったりということに着目して、そのような子どもがさらに勉強を進めていくためにどの教科書がよいかという視点で選びました。

そういたしますと、私も、東京書籍の特に6年生では、中学校への橋渡し、それから国際コースやパズル・クイズコース、さらには「算数実習コーナー」で補充問題を設けるなど、それぞれの子どもがそれぞれの取

り組みができるような編集の意図を感じました。そういった意味では、やはり子供たちが興味・関心を持って算数の勉強に取り組むという視点では、このようなさまざまなステージ、また興味・関心を誘発するような編集方針の教科書がいいと感じました。

それから、私が素直にいいと思ったことが、もう一つあります。例えば6年生の円と正多角形などを見ていきますと、「力をつけるもんだい」、それから「しあげ」という問題があります。その「しあげ」の問題を解くときに、中には解き方を忘れている子供もいますので、教科書の右側に「円の面積と半径を1辺とする正方形の面積の関係がわかるかな」というヒントの文章を載せています。さらに、26ページに戻ってみようという記載もあって、分かる子も分からない子も、適切に自分から進んで問題解決に取り組んでいけるようにするという編集意図を強く感じました。これは6年生だけではなく、全ての学年の全ての単元に、このようなページがございます。この辺りが子供たちにとって分かりやすい教科書になると思いましたので、結論としては私も東京書籍にしたいと思います。

○石川 委員 私も、東京書籍がいいと思います。指導する側、それから学ぶ側にとって、ステップが細かく設定されていると感じています。例えば、高学年でつまずいてしまうのは分数の掛け算、割り算ですが、なぜ分数の割り算の場合には、逆さまにして掛けるのかという導入が、前の学年の知識などステップを細かくした上で説明をしているところがとてもいいと思います。分数の割り算や掛け算は、高学年でつまずいてしまうと、中学生に持ち越してしまうことがあります。東京書籍の分数の掛け算、割り算のところは、他の教科書よりも明らかにページ数が多いので、それだけ子どもがつまずいてしまうところに力を入れて編集しているのではないかと思います。これらのことから、東京書籍を推薦したいと思います。

○青 蔭 他にご意見等ございませんか。

委員長 他にないようでございますので、質疑を終結いたします。

それでは、算教科算数について採決いたします。

本件について、発行者名を申し上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

東京書籍、4名。他はございませんか。

東京書籍が全員でございますので、算数科算数の教科用図書については、東京書籍に決しました。

続いて、理科について審議を行います。

細部説明を求めます。久津間指導室長。

○久津間 採択検討委員会では、第1順位、啓林館、第2順位、東京書籍、第3
指導室長 順位、教育出版、第4順位、大日本図書、学校図書という推薦をいただきました。なお、信州教育については、見本本の送付がなく、検討できませんでした。

啓林館については、学習と生活が結びついていて視点を換えることができる工夫がある。神奈川も扱っている。自由研究の発展の余地が示されている。「保護者の方へ」があり、保護者も含めて学べる工夫がある。理科プラスという書き込み教材が工夫により有効に活用できる。基礎基本の定着に構成が工夫されている。

東京書籍については、理科に必要な思考の流れが分かりやすく、大きく書かれている。パラパラ漫画を入れたりして、興味・関心を高める工夫が見られる。

教育出版については、学年ごとのつながりと資料が豊富である。

大日本図書については、次の学年へのつながりを意識した工夫がある。

学校図書については、準備物を用意するのに、使う物をチェックできる工夫がある。文字数が多く子どもたちが難しさを感じることを予想される。

これらの報告がなされました。

○青 蔭 ありがとうございます。

委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしくお願ひします。

○石 川 私は、啓林館の「わくわく理科プラス」が非常に気に入っています。

委員 なぜかといいますと、学校ではこういう教材を子供たちに買わせたり、それから教員が作ったりして指導しています。そういう意味で、保護者にも、教員にも負担が少なくていいと思います。

それから、自由研究のページが設けられており、子供たちの科学の芽を育て、発展的な学習につながるのではないかと思います。

○鈴木委員 私も石川委員と同様です。写真等が豊富に載せてあること、グラフなど算数と協調してある点がございますので、啓林館を推したいと思います。

○篠田委員 私も、啓林館の「わくわく理科プラス」は、予習復習の手助けになると思いました。他に掲載されている写真がとてもインパクトのあるもので、目を引く分かりやすいものでした。学年によっては巻末に付録カードがついており、例えば3年生では「こん虫をさがそう!」、4年生では「星や星座をさがそう!」など、ぜひ利用したいと思わせる工夫がされておりました。石川委員もおっしゃっていたように、自由研究においても、幅が広がるものではないかと思います。

○滝澤教育長 理科の教科について私が常々思っているのは、実証性がどう担保できるかということです。また、子供たちが実験の中で器具を使うことに、慎重に丁寧に対応していかなければいけないことが、現場の教員の声だと私は思っていますので、実験の中で事故を起こさない、また誘発しないという視点で、実験における注意事項がどのように表現されているのかを見ました。例えば、金属の温まり方という4年生の授業の中では、スタンドとガスコンロを使って鉄板を温めて熱の伝導を調べるのですが、実験の後にまだ鉄板が熱いうちに指で触ってやけどをする事故が比較的多いように思います。そこでどのような注意書きがあるのかを見たところ、やはり教科書会社によって違いがありました。例えば「やけどをするので、熱した金属には、よく冷めるまで触らない」といった説明書きがほとんどですが、啓林館は「火を消しても、熱した金属や使った器具は熱くなっているので、冷めるまで触ってはいけません。」と記載しています。この「火を消しても」がキーワードだと思います。子供たちは、火を消したらすぐ触ってしまう、この辺の子供の心理、操作性の未

熟さを十分に配慮した視点から、注意事項が書かれています。この辺を、教員がしっかりと子供たちに意識させることで、さきほど述べたような事故は防げるのではないかと思います。

実験での事故を起こさないという視点では、このようなきめ細かい説明が編集方針としてあることは、教員も子供たちも助かるのではないかと思います。

それから、啓林館では、導入の部分を大きく見開きのページとしています。例えば物の温まり方については、お父さんと子供が目玉焼きを焼いている写真が載っています。このようなインパクトの強い構成によって、その単元でどのような学習をするのか、写真やイラストからしっかりと読み取れると思います。このような理由から、啓林館がいいと思っております。

○青 蔭
委員長

他にご意見等ございますか。

他にないようですので、質疑を終結いたします。

それでは、理科について採決いたします。

本件について、発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

東京書籍、ゼロ。大日本図書、ゼロ。学校図書、ゼロ。教育出版、ゼロ。啓林館、4名。

啓林館が全員でございますので、理科の教科用図書については、啓林館に決しました。

続きまして、生活科生活について審議を行います。

細部説明を求めます。久津間指導室長。

○久津間
指導室長

採択検討委員会では、第1順位、東京書籍、第2順位、学校図書、第3順位、大日本図書、教育出版、光村図書、啓林館、日本文教という推薦をいただきました。なお、信州教育については、見本本の送付がなく、検討できませんでした。

東京書籍については、スタートカリキュラムが有効。色使いが優しい。伝え合う例が分かりやすい。外で使える定規の工夫、「本当の大きさ」などが外での活動に有効。教科横断的な視点がある。

学校図書については、「学び方図鑑」が子どもの学びに有効。話し方、聞き方が分かりやすく記載。写真がダイナミック、デザイン性がある。観察日記の欄に書き込めるのがよい。

大日本図書については、イラストが多く、課題が示され有効。教科横断的な視点がある。

教育出版については、平塚の七夕、横浜のことが載っている。

光村図書については、リード文の問いかけが記載されてよい。

啓林館については、リード文の問いかけが記載されてよい。外で使える定規の工夫。

という報告がありました。

○青 蔭

ありがとうございました。

委員長

ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしく願いいたします。

○篠 田

この生活に関しては、採択検討委員会では東京書籍が第1順位でしたが、第2順位の学校図書も、私はとても魅力を感じました。まず、学校図書で1番に目を引いたのは、単元のテーマ、題名が「ありがとうがいっぱい」や「えがおがいっぱい」と、教育基本法に示されている豊かな情操と道徳心を培うというところに則した内容で、1、2年生が使用する教科書としてふさわしい、頭に入りやすい工夫となっていると思いました。学び方図鑑のところでは、上手な話し方、聞き方、相談の仕方や発表の仕方、さまざまな方法がアドバイスの的に表記されておりまして、基本的な学習の方法に役立つだろうと考えまして、私は学校図書を推薦したいと思います。

○石 川

私は、生活科は東京書籍がいいと思います。生活科は低学年の子供たちが使う教科書ですから、見やすくて魅力のあるものだと思います。また、実際に活動する教科書ですから、活動をどう補助できるかという観点で教科書を見ました。そういう中で、東京書籍の「ほんとうのおおきさ ずかん」が、僕は魅力的だと思います。写真に出ていても、実物の大きさがなかなか理解できないので、これはいいと思います。その他のイラストや写真なども、子どもの意欲を引き出すのにとっても効果

的ではないかと思いました。

さらに、生活科も次の学年につなげるために、やはり調べ学習とか、発表とか、そういうことの基礎を養う必要があると思います。そういった手立てが東京書籍はしっかりしているのではないかと思いました。

○鈴木委員 生活科は非常に悩みました。前は東京書籍が採択されていて、また採択検討委員会でも東京書籍ということですが、実際に教科書を見たところ、東京書籍もいいと思うのですが、学校図書は写真がたくさんダイナミックに載せてあり、インパクトがありました。書き込みができることもいいです。また、学校図書は、外へ持ち出しても大丈夫な加工がされているのか、少し紙質が違うように思いました。

このようなことから、悩みましたけれども学校図書がよろしいのではないかと思います。

○滝澤教育長 私も悩みました。それぞれの教科書会社が工夫されていると感じております。

東京書籍は、この最初に1年生が会う、「どきどき わくわく 1ねんせい」という部分のお年寄りとお男子とお女子の表情がいい。この「すたあと ぶっく」は、「じぶんで できるよ」など、子供たちが生活科の勉強をしていく、いわゆる学校生活をしていく上で基礎になりますので、この部分のこの子供たちの写真、活動的な明るい笑顔などが、すごく魅力的だと感じます。ここを見ると1日の生活の想像がつかます。また、教員もいい表情をして写真に写っていて、子供と一緒に成長していることが表れています。この写真が子供たちにとっても、教員にとっても、希望や意欲を湧かせる、学校生活が楽しくなる、そのような働きかけが丁寧に行われていると感じました。そこが魅力的だと思いました。また、写真が丁寧に入っていて、見る子供たちにとって相当インパクトがあると感じます。少し気になるのは、例えば朝顔の育ちとか、種とりとか、このようなところで技術的なところに教科書の編集が向いている傾向があると感じました。そういった意味では、学校図書についても、今、お二人の委員さんが説明をされていたように魅力的だと思いました。

私がもう一つ気になったのが啓林館の教科書です。啓林館の編集方針の一番根底にあるのは、子供たちがさまざまな活動を通して、自己肯定感や自己評価を得ることをだと感じました。また、児童の感性に訴える写真やイラストの構成は、啓林館が比較的的確になされていると思います。例えば「がっこうと ともだち」では、大きく見開きで子どもの写真が出ています。また、「たいけんしたことを みんなで はなそう」なども見開きで出しているところからも、編集の意図を強く感じます。

それから、「がっこうの まわりを あるいて みよう」では、見守り隊の人たちが黄色い旗を持っている写真など、子どもたちが事故に遭わないようにということに視点を絞った、イラストや写真が多くあります。26ページと27ページを見ますと、「あかるい えがおで まいにち げんきに なります。ありがとう。」というイラストがあります。子どもたちが自分の命を守る、そしてみんなが安心して安全に登下校ができる。そこにおじさんが手伝いをしているということで、見守られる安心感を、写真ではなくイラストにしたことによって、感性の豊かな子供たちが、感謝の気持ちを読み取るのではないかと思います。本市でもこのような見守りをしていただいている地域の方、住民の方が大勢いらっしゃいますので、この辺りは子供たちにしっかりと伝えていきたいところです。このページはすごくインパクトのあるページだと思います。ただ「事故に遭わないように」ではなく、そこに気持ちが入っているということは、メリットではないかと強く感じました。

それから、啓林館の生活科、上の各単元のネーミングに好感を持ちました。「ひろがれ えがお」とか「がっこうと ともだち」とか、「ひとつぶの たねから」とか、「さあ みんなで でかけよう」とか、「だいすきな なつ」とか、「生きものと なかよし」とか、「たのしもう あき」とか、「たのしき見つけたよ ふゆ」とか、この部分もいいと思いました。例えば自分が朝起きてから寝るまで、どのような生活態度かを確認し、自分から早寝早起きなど自立した生活習慣をつけていく。またお手伝いなどができるようになることが活動の視点になっていきますが、ここの単元が「ひろがれ えがお」というネーミングになって

います。つまり「家族がみんなで笑顔になれるような」という視点で、家族の絆について、子どもの立場、大人の立場、お年寄りの立場、でインパクトのある写真を出して、そしてイラストで、子供たちには、何ができるかを表現していく。そのコンセプトを「ひろがれ えがお」、つまり、家族に笑顔が広がっていくということで表現しています。先ほど申し上げたように、自己肯定感とか自己有用感とか、そのような視点から積極的な活動、意欲的な活動を子供たちに広げていく、そういう編集の意図があると感じました。

最後になりますが、巻末の「わくわくずかん」で、基本的な生活習慣や、マナーなどの内容がまとめて資料として編集してあるのも活用しやすいと感じました。

そういった意味では、非常に迷っておりますが、私は啓林館がよいと感じております。

○青 蔭
委員長

他の委員の方、いかがでしょうか。他にございませんか。

他にないようでございますので、質疑を終結いたします。

それでは、生活科生活について採決いたします。

本件について、発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

東京書籍、1人。大日本図書、ゼロ。学校図書、2名。教育出版、ゼロ。信州出版、ゼロ。光村図書、ゼロ。啓林館、1人。日本文教、ゼロ。

学校図書が2人、東京書籍が1人、啓林館が1人、これまでの票は、過半数に達しておりません。私は学校図書がいいと思います。よって学校図書が過半数に達しますので、生活科生活の教科用図書については、学校図書に決しました。

続きまして、音楽科音楽について審議いたします。

細部説明を求めます。久津間指導室長。

○久津間
指導室長

採択検討委員会では、第1順位、教育出版、第2順位、教育芸術という推薦をいただきました。

教育出版につきましては、誰にでも作りやすい旋律作りの工夫など、

教材が随所で工夫されている。教師に何を意識して学ばせるかがよく分かる。馴染みのある曲が入っている。国歌の説明が詳しい。拍子を知識として長さをもとに扱っている。3年生の口形はプロの様子がありよい。写真が多くてよい。1年生で習う「大きなかぶ」の歌があり、他教科との関連が見られる。手話の楽曲があり、現在も学校全体でも活用している。

教育芸術につきましては、鑑賞では聞き方のポイントを示している。歌い方の具体的な技術が示されている。器楽では図式で具体的に示している。歌集で選ぶ曲があり、きれいな歌声を求めている感じがある。国歌の説明がシンプル。拍子を体得するように扱っている。3年生の口形がよくないという意見がある。デザインは優れている。内容は難しさを感じる。

という報告がありました。

○青 蔭 委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしく願いいたします。

○篠 田 委員 音楽に関しては、2社とも甲乙つけがたい内容でした。その中でどちらかということであれば、曲のイメージを持たせやすい写真が多かったことと、透明シートのような児童の興味を引く工夫があることから、教育出版がよいだらうと判断しました。

あと、決め手の一つとしては、やはり採択検討委員会の所見にある3年生の口形も教育出版の方がよいということで、教育出版を勧めたいと思います。

○石 川 委員 これも本当に迷いましたが、基本的には前回も教育出版でしたので、連続性という観点で教育出版がいいのではないかと考えております。

他にも、教育出版は大判の見開きのページがあるなど工夫がされており、楽譜もとても見やすい感じがしました。これも音楽の教科書では必要なことだと思います。また、これは個人的な感想ですが、私たちがよく知っている歌が扱われていることもあります。さらに、国歌の説明が教育出版はしっかりしていると思います。いろいろと賛否はありますが、やはりしっかりとした知識を得ることは大事なことだと思います。

○鈴木委員 随分悩みましたが、教育芸術もいろいろな面でいいところはたくさんありましたが、冒頭に申し上げましたとおり、継続性ということと、写真、イラストなどを総合的に判断すると、教育出版がよろしいのではないかと思います。

○滝澤教育長 教育出版は、低、中、高学年の2学年ずつのまとまりで、発達段階に則した教材配列ができているところも魅力的だと思いました。また、日本の音楽、世界の国の音楽が適度に紹介されており、日本の文化、世界の文化について音楽を通して学ぶという、編集方針が魅力的だと思いました。

教育芸術も魅力的ですが、学校アンケートでも教育出版を推す傾向がありましたので、現場で使いやすい教科書という観点から、教育出版がよろしいのではないかと思います。

○青蔭 他に、ご意見等ございますか。

委員長 他にないようでございますので、質疑を終結いたします。

それでは、音楽科音楽について採決いたします。

本件について、発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

教育出版、4名。

教育出版が全員でございますので、音楽科音楽の教科用図書については、教育出版に決しました。

続きまして、図画工作科図画工作について審議を行います。

細部説明を求めます。久津間指導室長。

○久津間指導室長 採択検討委員会では、第1順位、開隆堂、第2順位、日本文教という推薦をいただきました。

開隆堂については、教えやすさや身近な題材からという点で優れている。子どもたちの感性に訴えるものを力と見るならばよさがある。子どもの作品の載せ方が見やすい。單元ごとの道具の使い方が大きく示され、目次に道具が示され、準備などで扱いやすい。誰もが知っている作品を鑑賞で取り扱っている。鑑賞教育のねらいが載っている。写真が大きくデジタル機器での扱いが多く、大和市では電子黒板を考えると有

効。前衛的な雰囲気がある。展示会の感想で家に持って帰るとごみになるという感想がある。

日本文教については、作品の見た目は評価が高い。以前に比べて身近な題材も増えている。道具は最後のページにまとめてある。道具については少し高度であると感じる。やわらかく落ちついた雰囲気がある。これまでの流れを踏襲している感がある。

という報告をいただきました。

○青 蔭 委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしくお願いを申し上げます。

○篠 田 委員 図画工作についても、2社の教科書が甲乙つけがたく、悩んだところ
委員 です。教科書を比べると、開隆堂は、目次に必要な道具、材料が全ての単元で示されているのが分かりやすくいいと思いました。

また、たくさんの作品があり、全ては扱えませんが、教員にとってどちらが使いやすいのか、学校アンケートを参考にいたしました。いろいろな意見がありましたが、比較的開隆堂が多いのではないかと思いますので、開隆堂を推したいと思います。

○鈴 木 委員 私も開隆堂がよろしいかと思えます。採択検討委員会の所見欄に、写真が大きく、電子黒板が設置されている大和市で有効との記述があります。私は、電子黒板の活用状況に関して疑問を持っていて、もっと積極的に活用してほしいと思っていますので、この教科書を使って、これまで以上に電子黒板を使用してほしいと思います。

○石 川 委員 私も非常に迷いました。はっきり申し上げて絵を描く部分については、日本文教の方がいいと思います。魅力がありますし、基礎基本のしっかりとした絵が描けるのではないかと思います。一方で、全体的な構成を見ますと、開隆堂の方が学年を通してバランスよく配置されていると思います。図画工作は、絵だけではありませんから、それらの全体的なバランスがとれていると思います。自分が指導するとなると、具体的な絵を描かせてしまうのですが、最近では抽象的なものが増えていまして、なかなか分かりにくいところがありますが、全体的なバランスからいうと、開隆堂がよろしいかと思えました。

○滝澤 教育長 私も甲乙つけがたいと思いましたが、学校アンケートや調査研究員など教職員が開隆堂を支持していることが、開隆堂を推す一つの理由になると思っています。また、絵画や工作は、制作が中心になりますが、制作した作品をお互いに鑑賞し合ったり、振り返ったりという場面が意図的に対応できるような教科書の編集方針になっています。両社ともそのような視点がありますが、その活動のさせ方として、話し合い活動を行っているところが、開隆堂を推す理由になると思います。

また、採択検討委員会の所見にもありますが、身近な題材からという点で優れていること、先ほど鈴木委員がおっしゃったように、電子黒板を活用して写真等を補助資料に使うといいのではないかということ、また、子供たちの作品も電子黒板を使って披露して、話し合い活動につなげることもできること、そういったことが採択検討委員会の所見から読み取れましたので、開隆堂を推したいと思えます。

○青蔭 他に委員の方々からございますか。

委員長 他にないようでございますので、質疑を終結いたします。

それでは、図画工作科図画工作について採決いたします。

本件について、発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

開隆堂、4名。

開隆堂が全員でございますので、図画工作科図画工作の教科用図書については、開隆堂に決しました。

続きまして、家庭科家庭について審議いたします。

細部説明を求めます。久津間指導室長。

○久津間 指導室長 採択検討委員会では、第1順位、東京書籍、第2順位、開隆堂という推薦をいただきました。

東京書籍につきましては、技能の説明の流れがよい。イラストによる分かりやすい説明がよい。「確かめよう」で大型の写真で自ら確かめて学習する意図が見られる。プロに聞くというキャリア教育につながる部分があり、よい。重要どころを含めて、文字が見やすく、優れている。見やすく色も落ちついていて、学習の流れが分かりやすい。左利き

の例が載っていてよい。

開隆堂については、写真が豊富で撮り方がよい。夏休みの課題があり、実践力への工夫がある。安全、衛生、防災について大切にしていることが見られる。スパイラル学習で何度も触れるとあるが、期間が離れ過ぎている例があった。フォントがゴシックで扱われている。

などの報告がありました。

○青 蔭 委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしくお願ひします。

○鈴木 委員 これも随分悩みましたけれども、私が一番推したいのは、東京書籍の「プロに聞く！」です。キャリア教育につながるだけでなく、プロフェッショナルな方からのメッセージが掲載されていることは、とてもインパクトがあると思っております。また、ユニバーサルデザインフォントや、カラーバリアフリー等が用いられて、見やすい紙面になっていることも含めて、東京書籍を推したいと思ひます。

○石川 委員 私は、どちらかというところ、開隆堂の方がいいと思ひました。家庭科は、理論的なことも当然必要ですが、実習が多いのが特徴です。開隆堂は、その実習の細かいステップが写真等で多く示されていると思ひました。実習で調理する場合や、縫い物をする場合に、実際の写真で手順が示されていると、子供たちにとって使いやすいのではないかと思ひましたので、私は開隆堂がいいと思ひます。

○篠田 委員 私は東京書籍がいいと思ひます。その理由ですが、目次で成長の記録をつけられるところが、習得内容の確認、振り返りの手助けになるということ、また、巻末の「これからの私たち」で、環境問題を捉えながら、生きていくために必要なことを考えていける構成になっているのがよいと思ひました。

○滝澤 教育長 私も東京書籍を推したいと思ひます。技能の説明がよいとか、それからイラストによる分かりやすい説明があるということは、採択検討委員会の所見でもござひますが、私も同じ様に感じております。開隆堂も写真の多さという点では魅力的ですが、やはり技能の部分が分かりやすく出ていることが重要だと思ひます。また、鈴木委員がおっしゃたよう

に、「プロに聞く！」という項目はいいと思いますので、そのような情報が示されている東京書籍がいいと思いました。

○青 蔭
委員長

他にご意見等ございますか。

他にないようでございますので、質疑を終結いたします。

それでは、家庭科家庭について採決いたします。

本件について、発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

東京書籍、3名。開隆堂、1名。

東京書籍が賛成3名でございますので、家庭科家庭の教科用図書については、東京書籍に決しました。

続きまして、体育科保健について審議いたします。

細部説明を求めます。久津間指導室長。

○久津間
指導室長

採択検討委員会では、第1順位、東京書籍、第2順位、文教社、第3順位、大日本図書、光文書院、学研教育みらいという推薦をいただきました。

東京書籍については、見開きで構成されていて、活用まで学習の流れが盛り込まれていてよい。内容が生活と関連づけられてよい。学習の量と内容が適切でよい。書き込みができ、時間数が少ない中、これで完結できる。自転車のところ分かりやすい。

文教社については、他社に比べて大きく分かりやすい。内容は少し多いが、図が多く分かりやすく、捨てがたい。自転車について詳しくはないが扱っている。

大日本図書については、体についての体験談や話し合い活動が取り入れられている。不安や悩みを軽くしようという内容がある。自転車について扱っている。

光文書院については、自転車について詳しく取り上げている。

学研教育みらいについては、体についてグラフやレントゲン写真で医学的に説明し、悩みそうなことを漫画で表現し、道徳と関連づけている。自転車について扱っている。書き込む量がよい。まとめが章末にある。発展の学習は時間的に厳しいと考えられる。

という報告がありました。

○青 蔭 委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしくお願いいたします。

○鈴 木 委 員 今回の教科書の中で、一番悩みました。前は光文書院と聞いておりますが、採択検討委員会の報告書では東京書籍となっております。随分悩みましたが、私は東京書籍を推したいと思います。その理由は幾つかございます。大和市は健康都市を目指していますが、「心の健康」の単元で、よりよいコミュニケーションについて取り上げられていること、いじめについての連絡先等が明記されていることは重要だと思います。また、実際に自転車の交通事故等がございましたので、自転車について分かりやすく説明されていることも理由の一つでございます。最後に、保健ということで、生活習慣病に加えがんの予防に関しても丁寧に触れておりましたので、東京書籍を推したいと思います。

○石 川 委 員 私も非常に悩みましたが、東京書籍を推したいと思います。大判で、子供たちにとって見やすいこと、それから、書き込みができることがあります。基本的にワークシート的な教科書で、保健の授業が年間に何時間もとれない中で、ノート等を新たに用意する必要がなく、ここに書き込みをして完結できるということは、大きな利点だと思いました。

それから、飲酒や喫煙のほか、薬物乱用についても、話題になっている危険ドラッグ等の薬物も含めてしっかりと取り上げているのがよかったと思います。

○篠 田 委 員 私も非常に悩みましたが、採択検討委員会の答申では第3順位となっている光文書院にとっても魅力を感じております。現在、使用されている教科書も光文書院ですので、光文書院と東京書籍の両方を、時間をかけて見せていただきました。光文書院の方は、全体を通してページの下に知っておくためになる内容が、電球マークで取り上げられています。この内容が子ども目線で、とても重要な記載であると感じました。また、各単元でも、まず頭に入れておきたい内容が、初めに分かりやすく記載されていると感じました。例えば、たばこや薬物乱用の害の項目においても、まずインパクトが強い内容が出ていたと思います。

東京書籍は、書き込みができるので、振り返り等がしやすいと思ったのですが、やはり時間数の少ない中で、児童に響きやすい内容であることが大事だと思ひまして、光文書院を推したいと思ひます。

○滝澤 教育長 私も本当に悩みました。やはり中学年だと、1年間で6時間ぐらいの授業ですので、やはり分量の問題があります。適切かつコンパクトにまとめてあるかが、判定の基準になると思ひています。

交通安全については、全ての教科書で扱っておりますが、私が見た範囲では、光文書院が丁寧に書いていると感じました。大和市でも子供の交通事故が多く、自転車の乗り方なども原因の一つになっておりますので、子供たちにはしっかり学ばせる必要があると思ひております。

光文書院のいいところは、篠田委員もおっしゃったように、ページの下に呼びかけがあることです。この部分も含めて、光文書院の方が大和の子供たちには合っているのではないかという感想を持ちました。

東京書籍は、ワイドで見やすいという特徴があります。時間数も少ない中で、大きな字でしっかりと勉強できた方がよいと感じましたし、装丁もしっかりしていますが、私は、光文書院がよいと思ひております。

○青蔭 他にご意見等ございますか。

委員長 他にないようでございますので、質疑を終結いたします。

それでは、体育科保健について採決いたします。

本件について、発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

東京書籍、2名。大日本図書、ゼロ。文教社、ゼロ。光文書院、2名。学研教育みらい、ゼロ。

東京書籍、2名、光文書院、2名で賛成同数です。私は東京書籍がよいと思ひます。よって、東京書籍が過半数に達しますので、体育科保健の教科用図書については、東京書籍に決しました。

◎閉会

○青蔭 以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

委員長 これにて教育委員会7月定例会を閉会いたします。

閉会 午前11時05分